

地域における防災教育の実践に関する手引き 概要

この手引きは、全国各地で防災教育の輪を広げることを目的に、優秀な先進事例から得られる「取組を進めるための知見」を整理し、**防災教育を実践する過程で生じる様々な課題を解決するためのヒントを示す**ものです。

1. 手引きの対象

教育・福祉関係団体（学校、幼稚園、保育施設など）に限らず、地域住民団体、ボランティア団体、地方公共団体などにおいて、**これから防災教育に初めて取り組もうとする方**を主な対象としています。

2. 防災教育を実践するにあたって

(1) 防災教育の目的

地域に属するひとりひとりの防災意識の向上を図り、地域内の連携を促進することなどにより、**地域の防災力（災害を未然に防止し、災害が発生した場合における被害の拡大を防ぎ及び災害の復旧を図る力）を強化**することを目的とします。

(2) 防災教育を実践する上での五箇条

①地域の特性や問題点、過去の被災経験を知ること

- ▶ 地域の脆弱性を把握し、想定される災害リスクを的確に捉えること

②まずは行動し、身をもって体験すること

- ▶ まずは自ら行動に移し、周囲に示すこと

③身の丈に合った取組とすること

- ▶ 無理せず、欲張らず、自分たちのできる範囲で取組を進めること

④様々な立場の関係者と積極的に交流すること

- ▶ 周囲の関係者と協力・連携することにより、新たな知見を取り入れること

⑤明るく、楽しく、気軽に実行すること

- ▶ 日常生活の中で気軽に継続できる取組を進めること

3. 防災教育を実践する上で重要な18のポイント

《3つの段階》		段階	要素	防災教育を実践する上で重要なポイント
準備	準備	準備段階	人(担い手)	① 担い手を決める
			人(つなぎ手)	② 地域のキーパーソンと連携する
			運営(組織)	③ 取組主体を組織化する
			運営(体制)	④ 活動範囲を無理に広げない
			場(時間)	⑤ 準備時間を確保する
			場(場所)	⑥ 活動場所を確保する
			お金(資金)	⑦ 活動資金を確保する
実行	実行	実行段階	ネタ(知識)	⑧ 知識や情報を収集する
			ネタ(教材)	⑨ 目的に応じた教材(プログラム)を作成する
			人(つなぎ手)	⑩ 経験豊富なアドバイザーを確保する
			運営(体制)	⑪ 地域の理解を得て関係機関と連携する
			場(時間)	⑫ 活動時間を確保する
			お金(経費)	⑬ 経費を低減させる
継続	継続	継続段階	コツ(工夫)	⑭ 他の実践団体と交流する
			人(担い手)	⑮ 後任者を育成する
			ネタ(教材)	⑯ 知恵や経験を形式化化する
			コツ(工夫)	⑰ 成果を外部に発表する
			運営、ネタ、コツ	⑱ 活動内容を継続的に見直す

《6つの要素》

人	担い手・つなぎ手
運営	組織・体制
場	時間・場所
お金	資金・経費
ネタ	知識・教材
コツ	工夫